令和元年度　総社市立池田小学校　学校評価資料

様式【学校評価資料】

A：達成している，　B：概ね達成している，　C：あまり達成していない，　D：達成していない

池田小学校

学校経営目標	具体的計画	令和元年度の達成基準	自己評価（中間）			自己評価（最終）			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
1 確かな学力、豊かな心、健やかな体を育む児童の育成	・教員の資質向上に向けた校内研究と研修の充実を図る。 ・家庭学習の定着を図る。	学校アンケート（児童） 「授業がわかりやすい」「家庭学習をきちんとしている」と回答する児童が90%以上	「授業がわかりやすい」98% 「家庭学習をきちんとしている」98%	A	・朝のモジュール学習，木曜日の補充学習の時間を計画的に実施するとともに，個々の児童に合った指導を工夫し，基礎学力の定着を図る。 ・各担任は略案ノートを作成し，各教科のねらいを達成できたか振り返る。特に，英語・体育の学びのスタンダードを定着させ，研究授業を行うなど、教員の授業力を高める。 ・学力調査や長期休業を利用した算数科の個別課題，漢字の定着学習を活用し，日々の学習指導の改善・実践を行う。 ・家庭学習の手引きや自主学習ノートについて，懇談等	「授業がわかりやすい」98% 「家庭学習をきちんとしている」100%	A	・教職員によるミニ研修や自主研修を実施し，授業力の向上に努めてきた。この取組を継続していく。また，次年度は朝学習での基礎学力向上の取り組みを強化し，改善計画を立て実施する。	・自己評価は適切である。 ・少人数の児童に対する手厚い指導を，今後も期待している。 ・学力向上は大事であるが，学校が楽しいと思えるように，一人ひとりに合った指導の工夫が重要である。
	・協同学習，SEL，ピアサポートを取り入れた授業 ・品格教育や道徳教育の充実を図る。	学校アンケート（児童） 「友だちやグループで活動する授業は楽しい」「正しい言葉づかいをするよう心がけている」と回答する児童が90%以上	「友だちやグループで活動する授業は楽しい」93% 「正しい言葉づかいをするよう心がけている」95%	B	・毎時間の協同学習を確実に実施するとともに，ピアサポート・SELを計画的に行い，良好な人間関係づくりに努める。指導実績を記録し，共通理解を図ることで教職員の指導力向上に努める。 ・「だれもが行きたくなる学校づくり」の各リーダーが中心となって働きかけを行い，全職員で推進する。家庭，地域への啓発を継続し，協力を得る。 ・人権週間中の行事や各学級での取り組みを効果的に活用し，平素の学級づくりにいかす。	「友だちやグループで活動する授業は楽しい」95% 「正しい言葉づかいをするよう心がけている」100%	A	・現在の取組を継続していく。また，複式学級編成が始まり，SEL等の実施方法について効果を確認し，次年度の取り組みに反映させる。	・自己評価は適切である。 ・普段，少人数での活動が多いが，グループや縦割りでの活動など集団での学習に触れる機会を積極的に設けてほしい。 ・学校に来ずらい児童への配慮や保護者・関係機関との連携を続けてほしい。 ・言葉づかいについては，放課後のスマイルキッズも歩調を合わせて指導をしていきたい。
	・基本的な生活習慣の確立 ・外遊びの奨励 ・大学と連携した体力・健康づくり	全員集合日１００日 学校アンケート（保護者） 「よい習慣が身についている」と回答する保護者が90%以上 学校アンケート（児童） 「体育の時間や休み時間に運動するのが好きだ」と回答する児童が90%以上	全員登校「元気の足跡」 30日 （9/27現在） 「よい習慣が身についている」88% 「体育の時間や休み時間に運動するのが好きだ」95%	B	・川崎医療福祉大学との連携を推進し，業間運動の工夫や体育科授業の充実を図る。また，毎水曜日の昼休みにロング休み時間を設定し，運動量の確保，人間関係づくりの場として教員も児童と共に遊ぶ。 ・トップアスリートとの交流活動を実施し，体力づくりやスポーツマンシップ，健康づくり，夢への挑戦などについて考える機会を設定する。 ・生活点検カード（いきいきカード）の実施時期を総社西中学校の定期考査の期間に合わせ，家族みんなで取り組む。生活点検カードによる調査結果を家庭と共有し，基本的生活習慣の見直し，改善を図る。 ・学校保健委員会でスマホなどメディアの適切な利用等について保護者とともに考える場をもち，点検カードとリンクさせて生活習慣の改善に役立てる。さらに保護者も参加するスマホ教室を有効活用する。	全員登校「元気の足跡」 49日 （1/10現在） 「よい習慣が身についている」84% 「体育の時間や休み時間に運動するのが好きだ」92%	B	・現在の取組を継続していく。大学と連携した，授業づくりの継続と学生の授業等への参加を促進する。 ・生活点検カードの調査集計結果は，メディアコントロールに重点を置いて保護者と共有する。また，読書活動とタイアップした取り組みを継続し，メディアコントロールによる時間の有効活用と心身の健康，家族とのふれあいについて考える機会を設けて置く。	・自己評価は適切である。 ・大学と連携した取組は、今後も継続して進めてほしい。トップアスリートとの交流は体育特区らしい取り組みである。保護者が体力づくり，健康づくりに関心をもてるような取組に期待する。 ・スマホの利用については不安がある。保護者と一緒に行うスマホ教室は有効な手段だと考える。継続実施を希望する。 ・保護者はお互いがつながることのできる場を求めているのではないか。スマイルキッズや「小道の駅」が交流の場として機能している面がある。池田地区も核家族化が進んだり3世代同居でも家族間の壁ができている場合もあったりするため、地域の交流の場を模索したい。
2 安全・安心な学校、地域から信頼される学校	・プロジェクトチームを組み，登下校の指導にあたる。 ・見守り隊，警察等と協力し安全な登下校に努める。	学校アンケート（保護者）「学校は登下校の安全に配慮している」と回答する保護者が90%以上	「学校は登下校の安全に配慮している」95%	A	・児童の登校を校門等で見守り，朝の様子の把握に努め，情報共有を図る。 ・毎水曜日の一斉下校時に地区別の登下校の反省を行い，安全な登下校についての意識高揚を図る。 ・見守りの方々，豪渓駐在所との連携を密にし，危険個所（工事，動物等）の早期発見，早期対応に努める。	「学校は登下校の安全に配慮している」100%	A	・現在の取組を継続していくとともに，児童数減少に伴う通学班編制の見直し等について保護者・地域と相談し安全な登下校について共通理解を図っていく。 ・年度当初の通学路の安全点検をはじめ，保護者・地域と連携し，危険箇所や工事箇所を把握し，すばやい対応に努める。	・自己評価は適切である。 ・学校は、多くの学校支援ボランティアの協力を得て，子ども達の学びを提供している。地域の協力者が学校を支える風土を大事にしてほしい。また，子ども達の安全・安心が最優先である。学校施設などハード面はもちろん、地域や保護者等の信頼を得るなどソフト面についての配慮にも期待する。 ・児童数がさらに減少することが予想され，登下校の安全について憂慮している。保護者・地域の見守り活動の継続は欠かせない。駐在所等関係機関との協力が欠かせない。
	・積極的な情報発信	学校アンケート（保護者）「学校は情報提供を積極的に行っている」と回答する保護者が90%以上	「学校は情報提供を積極的に行っている」100%	A	・学校での児童の様子等を積極的に情報発信していく。学校だよりは，保護者・地域関係者だけではなく，近隣の公共施設や店舗等に掲示を依頼し，特区の取組をPRし，転入児童の確保につなげる。 ・ホームページで適時に学校の様子を発信する。 ・ホームページにカウンターを設置して閲覧状況を把握し，ページの改善に努める。	「学校は情報提供を積極的に行っている」100%	A	・現在の取組を継続する。また，次年度も市内幼稚園へのPR活動を実施する際，ホームページ等での情報提供をPRし，特区への転入促進を図る。	・自己評価は適切である。 ・HPなどを通して，いろいろな情報発信があるのは，児童の様子，学校の様子等がよく分かる。保護者は，ネット世代であり，上手に活用することで学校への理解が深まる。県外や学区外からの来訪者はHPを閲覧している。さらなる充実を望む。
3 明るく活気ある職場づくり	・同僚性，組織力を持ったチーム池田の確立 ・働き方を見直し，ワークライフバランスが充実した職場環境づくり	各月の最終退庁時刻20:00達成90%以上 残業時間の縮減を図り，前年度比１０%減	各月の最終退庁時刻20:00達成54%（9月末） 残業時間前年度比13%増 （9月末）	C	・校務分掌の平準化や効率的な会議の運用、行事等の見直し，，「帰るボード」の活用，留守番電話機能の活用を図り，仕事の効率化に努める。このことにより，授業研究の相談や意見交換が活発にできるよう促し，学び合う教師集団として切磋琢磨し，子どもと向き合う時間を確保する。	各月の最終退庁時刻20:00達成51%（12月末） 残業時間前年度比−21%増 （12月末）	C	・現在の取組を継続する。また，教育課程の反省をもとに，行事の精選充実を図る。さらに，分掌業務の軽減や効率的な行事運営等を実施するため，教育計画等の文書記録の明確化，適切な保存蓄積や次年度以降に活用可能な会議資料の改善を実施する。	・厳しい目標設定であるが，自己評価は適切である。 ・学級数減により，職員数も限られる中，子どものために時間を活用できるように，業務の進め方など今後も改善に努めてほしい。残業時間は前年度より減少傾向にあるのは，次年度に期待できそうだ。 ・子どもたちが安心して学校にくることができるのは，信頼できる友だちや先生がいるから。子どもや学校のことのみならず地域のことにもかかわっている先生たちは忙しくたいへんだが，先生が元気で笑顔のある職場であってほしい。